

■今月の特選句

2013年3月号

受験子の横一線に祓はるる

白井道義

縦に並ぶと平等じゃなくなるという配慮。どう見ても実力には差がありそうだ。
「祓ひつつ合否推測神官は」。

甘くみてノロウィルスに追ひ付かれ

高橋素子

「ノロ」と見せかけて実はすばしこい奴だったわけで、追いつかれてしまった。
「ノロの名を返上するや風邪ウイルス」

とし玉を事業仕分けとはいかず

山下正純

年玉を、良い子にはたくさん、駄目な子には減らすという仕分けは難しい。蓮舫さんを頼みましょ。「暇になった民主党にも利用価値」。

霰降るいま鉄鉢があればなあ

田所國威

あったからと言って、山頭火のように一句詠めるとは限らぬぞ。鉄鉢が無くても詠めてこそ、滑稽俳人。「鉄鉢のなくても霰」。どうだね

こんにやくに何の落ち度や針供養

今城夏枝

世の中、落ち度がなくても割を食う。しかし、針には罪はない。針も被害者だね。
「刺すときにこんにやくに詫び古い針」

膝元に小町を寄せて歌留多とり

柳 紅生

小町は、未だに美人の代名詞ですね。膝元に寄せてとはかなりの好色漢と言うべき。
「おそらくは業平の齋歌留多とる」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

膝小僧隠して余る春帽子

・・・夏の帽子はデカ膝にあふ

飯塚ひろし

口先で馬鹿にしながら恵方巻

・・・流行追ふや流行蔑み

三塚不二

性格の丸出し蜜柑の剥き方に

・・・A型とバレ丹念に剥き

日根野聖子

携帯を不携帯して事成らず

・・・彼氏の居場所わからぬままに

佐藤義子

怒りぼくなつたと思ふちやんちやんこ

・・・英語でベストの衣装だけれど

有吉健二

転ぶ人見るが楽しみなる雪見

・・・明日は我が身と知るや知らずや

伊藤浩睦

きぬぎぬの冷めて蹴出さる湯婆かな

・・・湯婆の名を湯処女に変えなよ

小林英昭

花粉症マスクで美貌見せられず

・・・外見上は醜女と同じ

津田このみ

成分表付けてたなびく春霞

・・・メイドインチャイナの微小粒子

石川節子

初場所や喜怒哀楽も技の内

・・・高見盛は横綱級か

久我正明

凧揚げや電線ばかりの空がある

・・・電柱埋設一挙解決

稲沢進一

飯抜いて春一番によろめけり

・・・それで一句ができた幸運

有富洋二

夫の返事今朝もカチンと寒卵

・・・あてつけがましく乱暴に割る

麻生やよひ

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 口以外満身創痍去年今年
破るため禁煙誓う初詣
年一度生きてる証年賀かな | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | おしどりの雄の翼は思羽(おもいば)に
受験して大学卒(を)へる日を得たり
歩みきて千里万里や老いの春 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 鍋囲みまつげしめらせ頬紅潮
日が登りメリケン波止場雪失せぬ
早春や地球査察の宇宙人 | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 初鳩の慇懃無礼なお辞儀ぶり
地に足の着かぬ竹馬乗りこなし | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 開かずの間に髪伸びている雛人形
三月のハンサムウーマンの涙
啓蟄や聞きたがり屋がぞろぞろと | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 梅まつり抹茶無料は大行列
寝たふりで作戦たてる恋の猫 | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 雪女にひと目会ひたい死ぬ前に
同棲が同姓となり賀状来る | 有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 梅の香に誘われて犬に寄り過ぎぬ
これも春ハンバーガー待つ子ら踊る
何もない春を歌って今日も暮れ | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 他所行きの言葉途切れる大くさめ
流動食おかずも流動食寒病棟
大部屋は姦の二倍冬病棟 | 安藤淑子
安藤淑子
安藤淑子 |
| 【佳作】 | スカートが縮まる四温かな
猫の夫奇妙に痩せて戻りけり | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 荒縄に縛られ貰ふ白菜よ
柚子浮かべ溺れさしたり浮かべたり
凧の掴むし物は何かしら | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | ヒゲ五本バスト五センチ増え新成人
デフレとや福神貧乏神と場所争い | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 背すじスーツと伸ばしてみても春寒し
雛あられ誰の仕業か空袋 | 石川節子
石川節子 |
| 【佳作】 | 茎立の大根の首はねる妻
水音の光あつめて猫柳
池の水真黒にして蝌蚪の国 | 板倉肱泉
板倉肱泉
板倉肱泉 |
| 【佳作】 | 魚は氷に中学入試二次募集
麦飯と目刺で育ち医者知らず
宇宙人あひびきの跡御神渡 | 伊地知寛
伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 揉めました初東雲のストライキ
何故なのか地下鉄雪に止まりをり | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 領収書差し出す子供お年玉
湯豆腐を囲み誰かが開ける蓋 | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 義理ばかりバレンタインや大出費
風邪薬4種類出て胃が不安
着てみたき十二単や雛飾る | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 | 節分や身の内の鬼追ひ払ふ
重ねたるみどりを脱ぎし露の臺 | 今城夏枝
今城夏枝 |
| 【佳作】 | 滑稽の虜になりて年新た
ときめきて謎解きめいて初寝覚 | 入江澄泉
入江澄泉 |
| 【佳作】 | ノロという風邪に素早く手を洗い | 入江澄泉 |
| 【佳作】 | 着る人もまだ生臭き裘
鬼やらひ匿名で擲つ紙礫
初雪の翌朝整体院に列 | 宇井偉郎
宇井偉郎
宇井偉郎 |
| 【佳作】 | 賽銭はアルミに限る彼岸婆
ほろ苦き親の小言や露の臺
耳の日や耳の大きな仏様 | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 運命線途切れるところ冬ぬくし
堪忍の袋を縫ひて年用意 | 越前春生
越前春生 |

	海峡の烏賊火吹き消し雪女郎	越前春生
	扇風機に宇宙人だと言う男(お)の子 川面へと度胸試しや夏の声	大関のどか 大関のどか 大関のどか
【佳作】	金太郎飴笑い崩れて土用明け	
【佳作】	豆撒けど心の底に鬼が栖む 春の雪大都市ゆえの大見出し 膝小僧不如意のままに春立ちぬ	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
	節分に噛むや八十路の豆八つ	笠 政人
【佳作】	誤嚥せぬやう心して雑煮餅 ふつくらとダウンコートの寒雀	笠 政人 笠 政人
【佳作】	健康財宝女の幸せ菱餅の三色に 草木萌動わらぐろの宇和盆地 しぐれけり牧水の道訪ぬれば	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
	人妻の部屋灯を集め冬林檎	加藤 賢
【佳作】	マスクして人を欺く心地あり 嚏して噂をさるる筈もなし	加藤 賢 加藤 賢
	寺の梅柵で囲い三分咲き 初場所元横綱大鵬逝く	門屋 定 門屋 定
【佳作】	水仙の芽入試と同じ競い合い	門屋 定
【佳作】	初日の出定めとしての初日陰 降る雪の野壺に積もる不覚かな 我先のあらそひもなし寒の入り	金澤 健 金澤 健 金澤 健
	着ぶくれてふくら雀とお友達 寒風に背中押されて前向に	川島智子 川島智子
【佳作】	親子して嗚声の寒鴉	川島智子
	知らぬ間に曲がる背筋の余寒かな バレンタインのヘルシーチョコレート	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	エアコンもお風呂も喋る寒の明け	菅野あたる
【佳作】	ありがたき不似合いの服福袋 挨拶のビミョーな大きき息白し	久我正明 久我正明
	寒の雨蛇の目の傘に弾かるる	工藤泰子

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 襟巻きの狐を鳴かす女かな
蠟梅の香にとろけたる鬼瓦 | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 大寒やハブマジック掛かる棋士
参道を釈迦も雪搔く涅槃寺 | 黒田忠一
黒田忠一 |
| 【佳作】 | 日向ぼこ寝ぼけたふりして口説きををる
遅いぞとマスクの兄が目で怒る
平成の犬は炬燵で丸くなる | 小泉花子
小泉花子
小泉花子 |
| 【佳作】 | 皇人(すめらびと)タートルネックの温みかな
ついでにとラーメン温めるとどんど焼
白内障オペに小鳥のふん白し | 小杉 隆
小杉 隆
小杉 隆 |
| 【佳作】 | 首だしてたれが言ひしかこたつむり
物故者に河豚一同の黙禱す | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 湯治でも共に気遣う物忘れ
雪化粧湯舟に浸る老二人
初鏡今年生き抜く顔に一礼 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 振袖に内股歩き成人日
成人の日のみ紳士と淑女かな
目立ち屋の成人の日や大暴れ | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 雪ダルマウインク上手暖冬か
節分は今や子供の鬼ごっこ | 佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 | 節分や狐の嫁に尻尾見ゆ
節分の豆は拾へず恵方巻
節分の豆撒く寺をはしごせん | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 斑雪爆弾小僧の戯れしあと
夢殿へ底なし寒気南下中
分裂の会議宥める君子欄 | 柴田止揚
柴田止揚
柴田止揚 |
| 【佳作】 | 出世せぬ同士の気炎おでん酒
黙もまた夫婦の会話根深汁
なづな粥婆の蘊蓄まだ続く | 清水吞舟
清水吞舟
清水吞舟 |
| 【佳作】 | 温むほど夢想広がる春炬燵
春一番ビッグバンしてみたきかな | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |

	春の夜の夢の浮き橋崩れさる	下嶋四万歩
【佳作】	目唇胸偽装工事や初化粧 愛過多の手編みセーター肩が凝り 女房の胸に凍へし手を温む	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	筒抜けの耳打ち話日向ぼこ 受験子の切羽詰りて神頼み	白井道義 白井道義
【佳作】	冬の神様 付けまつ毛いつ許したの 何んにもないが 地を這う冬草 何か言いながらバケツの氷溶け始め	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	コンビニのおでんあつあつ一人食べ 参考書熱心努力の受験前 美術館公募豊富の春近し	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	河豚料理上座にまわし下のせき 金太郎腹掛一つ熊冬眠 雪うさぎ目薬さすと言う子かな	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	負けられぬ神経衰弱婆の意地 初夢の大尻餅が正夢に 大寒やベビーカーからマルチーズ	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	寺だけに残るや季語の煤払ひ 裏道へ出たがり庭の犬ふぐり	高橋素子 高橋素子
【佳作】	擦ってみたき足裏涅槃像 独り身の眩いて撒く節の豆	田所國威 田所國威
【佳作】	どふどふと心と一字書初に 手毬歌祖母の横顔思ひ出し 針供養心のとげも納めたし	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	山眠る僕は寢床の死のポーズ 軟酥の法や風邪ひきをなほすなる 冬帝の居候いつまでなのか	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	輝は懐かし昭和一桁は ひと所熱気売場や中二月 反抗期難を受けたり霜柱	田中早苗 田中早苗 田中早苗

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 鱧口の悲鳴をあぐる初詣
破魔矢より恋の矢が欲しめ欲し
妻知らぬマフラーいまだ日の目見ず | 田村米生
田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 山際にたなびく雲は杉花粉
蜜柑むくことも億劫ひきこもり | 津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | 福詣拝む人みなえびす顔
如月の妻愛さむと金使ふ
雪積むや覚えてゐない酒の嵩 | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 落ちぬやう男結びに受験絵馬
虫出しの雷はコロコロ笑ふごと
萬歳になりたる亀の亦啼きて | 永島董玉
永島董玉
永島董玉 |
| 【佳作】 | 二ヶ月の争議と成らぬ月給制
乗り遅れホームの椅子の冴返る
誰かまた黄泉の国への余寒かな | 西をさむ
西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 雪はもう勘弁してよハイヒール
雪凍てて鴉のこけてゐたりけり
ブルゾンのチャックに噛まれ奮闘中 | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 鮫鱈の口だけとなり吊るさるる
骨休めとて湯治場に骨折す
手袋の片割ればかり落ちている | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 日向ぼこ必ずサプリの専門家
一月のライオンがする大欠伸
ショッキングピンクのクラウン雪女郎 | 彦阪義久
彦阪義久
彦阪義久 |
| 【佳作】 | 城石を動かし蜥蜴出で来る
啓蟄や時効となりしラブレター
針祭経に蒟蒻畏まる | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | ふてぶてしき大寒といふ寒さかな
日脚伸ぶやおら始めむ夕支度 | 日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | 受験子となる実の子を買ひ被る
出戻りの末黒のなかを歩き来る
春の雪メロポリスを翻弄し | 広瀬雅幸
広瀬雅幸
広瀬雅幸 |

- | | |
|---|-------------------------|
| 梅蒼ひよろ伸ぶ枝の青臭し
鬼は内小遣ひせびる夫の掌
【佳作】 大試験四択二択〇×の | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 松過も過ぎに過ぎたる朝かな
冬日受けティッシュペーパー配る人
【佳作】 一月の終はり些か骨休め | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 山茶花の散り敷く庭に独り立つ
寒の堀音なく鯉の動きたる
【佳作】 寒の月見慣れし山の端の上に | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 憎きころ遠に過ぎたり成人す
鬼とても温き友なり豆撒かず
【佳作】 節分や遠き昔の接吻日 | 前 九疑
前 九疑
前 九疑 |
| 【佳作】 城山を目覚めさせむとひわ騒ぐ
紅梅のつぼみもみつけ老大樹
うす氷なめるびちやびちや猫の舌 | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 吾輩は見てみぬふりニヤ炬燵猫
春うごくクレオパトラの鼻の穴
汚染地へセンチメンタル時雨旅 | 松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治 |
| 【佳作】 新成人暴る威勢も無き憂き世
大寒や地球震へるテロの報
朝刊に「殺」の字溢る春立つ日 | 丸山紘一
丸山紘一
丸山紘一 |
| 【佳作】 寒風に気を吐く鴉空元気
日替りの帽子でカバー木の葉髪 | 三塚不二
三塚不二 |
| 【佳作】 一輪車春泥なれど止まらない
仰ぐ空パリへ向ふか春の雲
大夕焼け猫背の影の長々と | 三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑 |
| 【佳作】 大寒や787を一目見に
鯛焼の鯛は尾鰭の角がとれ
風邪予防マスクする人しない人 | 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝 |
| 【佳作】 じいちゃんは奥まで金歯福笑ひ
大寒や膝を離れぬ猫とみて | 村上美和
村上美和 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 厚き雲より降って来し寒ガラス | 村上美和 |
| 【佳作】 | 人去りし声の形に雪降りり
一番に婆の飛び出る雪こんこ
場所問へばあの世と答ふ夫臈 | 百千草
百千草
百千草 |
| 【佳作】 | 節分の豆を忘れる恵方巻
綿雪の流れ作業眠り猫 | 森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | 初場所はモンゴル綱に君が代か
月も日も天動説が似合う春
寒ければ日光結構ビタミンD | 森 要
森 要
森 要 |
| 【佳作】 | 無理矢理に春を立たせる暦かな
スロースタート今年の恋の猫たちは
口づけの口鬼豆の香りして | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 | 初詣で女難の相の孔子(くじ)引けり
鏡餅テレビの前のパックかな
癸巳巳成金祭初巳かな | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 浮き袋用意か布袋宝船
太陽に顔向けならぬ雪達磨 | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | くそばばあ言われし介護山笑う
恋猫や吾にべったり夫嫉妬
海のミルクふつくふくカキシチュー | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 音のせぬ賽銭よ来い年賀社寺
蛇のよに脱皮願ふや玉の春 | 山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 園児等の餅つく杵を持て余す
風呂掃除明日に回さむ女正月
大寒の卵の黄身や濃くありぬ | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 叱られる子どもの気持餅を食ふ
ばばと文旦かがやける朝市に
盆梅の向きを変へてはまた元に | 山本 賜
山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | 日溜まりは老人だまり日脚伸ぶ
もう一年待つ絵馬となり弥生尽
葉桜となりてをりたり予約バス | 横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎 |

豆撒や歌舞伎役者の声高に
立春や調髪の妻若返り
【佳作】 マスクして瞳だけ美人や花粉症

渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを